

三六三四番

筑紫道の可太の大島 しましくも 見ねば恋し
き 妹を置きて来ぬ

三六三五番

妹が家道 近くありせば 見れど飽かぬ 麻里布
の浦を 見せましものを

三六三六番

家人は 帰りはや来と 伊波比島 斎ひ待つらむ
旅行く我を

三六三七番

草枕 旅行く人を 伊波比島 幾代経るまで
斎ひ来にけむ